

令和4年度 福井県立若狭高等学校（全日制） 『学校関係者評価書』

1 重点目標や具体的取組は適切か	2 学校評価書の「成果と課題」は適切か
3 学校評価書の「改善策、向上策」は適切か	
参加いただいた学校関係者 PTA会長 元教頭 計2名	
○教育課程・学習支援	
<p>①「生徒の生活実態や学習状況を把握し、計画的・継続的な学習ができるよう指導する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は、家庭学習（自主的な学習を含む）時間が2時間未満という生徒が70%前後で大きな変化はないように思われる。今年度は週当たりの授業時間が32時間となり6限で放課という日が1日増えた。またクロムブックの活用も進んでいると思われるが、家庭学習時間に改善が見受けられないのは残念である。成績が下がったわけではなさそうなので短い時間をカバーできているのだと思うが、効果的な時間管理ができるよう新たな工夫が必要ではないか。 <p>②「生徒が主体的に学べる授業実践に努め、授業力向上を目指す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、公開授業期間や互見授業期間などを設け、先生方が研修に努めておられることがよくわかる。さらに研鑽を深められて、生徒が主体的に学べる授業を増やしていただきたい。 	
○生徒支援	
<p>①「思いやりや助け合いの精神、実践力を育成する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己評価にはたいへん高い数値がでており、お互いに認め合う土台ができているのだと感じる。若狭高校の生徒は、基本的に自己肯定感の高い生徒が多いのだとも思われる。この状態を続けていただき、さらに中身の充実に進んでいただきたい。 <p>②「5分前行動を習慣づける」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不注意による遅刻者は少なく、ほとんどの生徒は落ち着いて毎日を過ごしていると推察される。ただ、始業時間（予鈴）直前にあわただしく校門をくぐる生徒も見受けられるので、これまで同様「早寝、早起き、朝ごはん」の推進にPTAとの連携で呼びかけていくことが肝要だと思われる。 <p>③「特別活動の推進と充実に努める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のなかにあっても学校行事への達成感が高いことについては、生徒会をはじめとする生徒や、生徒支援部他の関係者各位の苦労がうかがわれる。昨年からのリーダーシップやフォロワーシップの育成にも取り組むということなので、アンケートの質問項目を変える時期にきているのではないかと思われる。 	
○生徒のキャリアサポート	
<p>①「面談や進路関連行事を充実させる確・適切な支援に努める」「学習および進路指導の個別最適を図る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報や進路支援に関する項目は、生徒、保護者、職員ともここ数年高い数値が維持されており、当初の目的をほぼ達成しているのではないかと思われる。より高次の目標を設定して新たな取り組みに着手されることが望まれる。 <p>②「入学試験や就職選考試験を分析し、データに基づいて求められている能力の向上・育成に努める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職に関わる試験問題や各種の模擬試験等、膨大なデータになることと思われる。過重な負担にならないよう留意されて効果的な指導に役立てていただきたい。 	
○保健管理・教育相談	
<p>①「日常的に生徒自ら健康管理ができるように努める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理に関する項目は、ここ数年80～90%くらいを維持しており、落ち着いた学校生活の基本ができているのだと思われる。コロナ感染防止やインフルエンザ流行への備えなど、引き続ききめ細やかにお願いたい。 <p>②「清掃に取り組みせ、環境整備に努める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間いっぱい取り組めたと感じている生徒、教員とも高い割合を示しており、委員会活動などもきちんと行われていると感じられる。 <p>③「生徒と面談する機会を多く持つことに努める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに年間数回の面談が実施されており、ありがたいことだである。悩みの抱える生徒は各学年に必ずいると思われる。その対応はたいへん難しいと承知しているが、学校全体で丁寧に行っていただきたい。 	

○地域住民との連携

①「積極的な広報を心がけ、意見交換の充実に努める」

・コロナ禍でのPTA活動は何かとご苦労も多かったことと推察されるが、活動に対する保護者の満足度が高かったことはたいへんよかった。対面でのPTA総会が開催できたことはよかったが、保護者の出席率が伸びなかったのは残念である。どのくらいの出席率を目標とするか、近隣の学校の状況もみながら設定するとよいのではないかと思われる。

○図書整備

①「図書室の利用者数の増加を図る」

・昨年度はクロムブックの導入によって図書室のPCを借りる生徒が減ったため利用者が25%減少したとあり、今年度はそれが6%回復したことになる。一人一台端末を持つ時代なので、図書室の利用のあり方を継続して考える必要があるのだろうと思われる。広報物に目を通したとする割合が昨年は35%も減少したが、今年度、紙媒体に戻したら21%回復したという結果がでており、電子機器による情報提供と、紙媒体による情報提供の特性が出ているのだと感ぜられる。状況により何が適切な方法なのか継続してご検討をお願いしたい。

②「蔵書数や内容を充実させ、生徒の図書利用を促進する」

・図書室の本の充実度に関する生徒の評価が高く出ていることはたいへん好ましい結果である。ただ、一般的には、ある指標に対する達成度を十分とする値は80%と思われるので、引き続き書籍に向かわせる仕掛けの工夫に今後も継続して取り組んでいただきたい。

○探究的な学習

①「授業のあり方について研究を深める」

・探究的な学びの方法を取り入れたとする教員の割合、課題設定能力が育っていると自覚している生徒の割合とも、昨年に引き続き高い結果が出ており、探究活動の推進が着実に進んでいることと思われる。横浜国立大との連携による活動結果の分析も今後行われるとのことであり、また海外も視野に入れた外部機関との多様な連携を計画されているようで、今後の本校教育の大きな柱になることが期待される。職員全体に活動の意義や方法が共有されること、過重な負担にならないこと等、予想される留意点も意識しながら進めていただきたい。

○学年会

①「生徒が協働して活動できる学習環境を整える」

・各学年目標(おそらくその上には学校の教育目標)があり、それに基づく各クラスの学級目標を掲げて、生徒の自主的な活動をうながすという姿勢がうかがわれ、その成果も出ているということであり、たいへんよい傾向であると思われる。

②「キャリア実現に向け、3年間を見据えた計画・実施・再検討を各学年団で共有する」

・各学年団が3年間のストーリーをあらかじめ設定し、上の学年からのアドバイスを受けながらよりよいキャリア教育の内容を練っていくという体制が作られていると推察される。学習指導要領も新しくなり、入試制度をはじめ社会の変化が大きい中で、それらに対応できるキャリア教育の改善に常に努めていただきたい。

③「地域や保護者へ教育内容をわかりやすく提示する」という点について

・コロナ禍における情報提供の手段として、HPやZoom、SNSなどが広く活用されるようになった。情報を提供する側はより丁寧になり、それを受ける側も一定程度慣れてきたため、進路情報の伝達にやや不満を持っている保護者の割合が減少したと思われる。対面で様々な情報を伝えることがまだしばらくは難しいと思われるので、保護者懇談会の持ち方をはじめとした情報提供の方法にさらに工夫を凝らしていただきたい。また、保護者側もICT機器の利用など情報の獲得にこれまで以上に興味を持つことも必要と感じる。